

フィジカルAIと日本の戦略

Japan's Physical AI Strategy Reconsidered

主催: キヤノングローバル戦略研究所/Organizer: Canon Institute for Global Studies (CIGS)

協力: 先端国際共同研究促進事業/

In Cooperation with Adopting Sustainable Partnerships for Innovative Research Program (ASPIR)

2026年9月16日/September 16, 2026

日本工業倶楽部/Industrial Club of Japan

東京都千代田区/Chiyoda-ku, Tokyo

Introduction

一般財団法人キヤノングローバル戦略研究所 研究主幹 栗原潤/

Jun KURIHARA, Research Director, Canon Institute for Global Studies (CIGS)

Kurihara.Jun@canon-igs.org/Kurihara.Jun@gmail.com

フィジカルAIと日本の戦略

Japan's Physical AI Strategy Reconsidered

はじめに

セミナーの目的

各種メディアを通じて巷間中国の目覚ましいRoboticsの発達が伝えられている。
またAIに関しては米中間の激しい開発競争が続いている。
こうした中、日本はロボット先進国の地位を如何に維持・発展させていくのか。
今後のフィジカルAIに関して、日本の戦略を、ロボットの研究開発に関わる専門家を招き、共に考える機会として、今回のセミナーを開催する。

本日の概要

専門家の知見

科学技術政策担当機関の視点から: 世界に出現した新潮流と日本の戦略
ビジネス界の視点から: 日本ロボット業界の対応

14:50-15:10: Coffee Break

パネル討論「フィジカルAIとその社会的課題」

協調安全の重要性、9月1~4日の日本ロボット学会の様様、更には
産官学が取り組むべき国際化、人材育成、倫理問題等についての議論。
最後に会場での質疑応答。

フィジカルAIと日本の戦略

Japan's Physical AI Strategy Reconsidered

本日のプログラム (発言者: 敬称略)

14:00-14:05 開会の辞

福井 俊彦 キヤノングローバル戦略研究所 理事長

14:00-14:10: 「セミナーの目的と概要」

栗原 潤 キヤノングローバル戦略研究所 研究主幹

14:10-14:30: 「フィジカルAIの潮目(Sea Change)と日本の目指すべき方向性」

茂木 強 科学技術振興機構(JST)研究開発戦略センターフェロー

14:30-14:50: 「フィジカルAI: ロボット業界の対応」

森岡 昌宏 ファナックロボット機構研究開発本部技師長

14:50-15:10: 休憩

15:10-16:20: パネル討論「フィジカルAIとその社会的課題」 司会

浅間 一 東京大学名誉教授・早稲田大学上級研究員

討論者

吹田 和嗣 大同大学教授

久保田 哲也 日本ロボット学会(RSJ)会長・川崎重工業理事

山野辺 夏樹 産業技術総合研究所(AIST)研究チーム長

江間 有沙 東京大学准教授

16:20-16:30: 閉会の辞

栗原 潤 キヤノングローバル戦略研究所 研究主幹

16:30: 閉会